

民族のるつぽに
内戦の傷跡残る

大航海時代と呼ばれた15世紀、ヨーロッパの船乗りたちは豊かな自然と文化を持つ島々にたどりついた。カリブ海と、その西に伸びる中米地域は、1914年に開通したパナマ運河の完成を待つまでもなく、ヨーロッパとアジア、北米と南米を結ぶ世界の交差点となった。

その一方で、交通の要衝であることは、さまざまな争いに巻き込まれることを意味した。植民地化とヨーロッパ人が持ち込んだ疫病によって多くの先住民が命を落とし、代わりの労働力としてアフリカから奴隷が輸入された。こうした経緯から、さまざまなルーツを持つ人々と文化が複雑に混ざり合っ



特集 中米・カリブ

息づく文化 ひろがる絆

日本と中米の国交樹立から80周年の節目の年となる今年には、「日・中米交流年」としてさまざまなイベントが予定されている。世界をつなぐ十字路ともいえるこの地域の平和を、日本は後押ししてきた。

て、今日の中米各国を形作っている。日本と中米の関係が緊密化し始めたのは1950年代のことだ。日本企業にとって戦後初の海外進出は、良質の綿花を生産するエルサルバドルでの繊維事業だった。日本の紡績・縫製技術は現地で高く評価され、今では警察の制服など、長期にわたって一定の品質が求められる分野でニーズが高い。エルサルバドルはまた、青年海外協力隊が最初に送られた国の一つだ。

一方、20世紀の中米では、輸出産業の利益を独占する富裕層と貧困層との格差が原因となり、多くの国で内戦が発生した。「内戦の平和的解決のために日本が多大な尽力をしたことが、日本と中米の関係をひととき強めた」と、専修大学の狐崎知己教授は指摘する。和平合意や民主的選挙の実現はもちろんだが、「平和が実現したあかつきには復興開発に協力する」という約束で和平プロセスを後押しし、約束通りの支援額において中米地域を最も支援してい

編集協力：狐崎知己 専修大学経済学部教授



グアテマラ

首都：グアテマラシティ
 人口：約1,547万人 一人当たりGDP：3,492米ドル
 民族：

 マヤ系先住民46% メスティーノ(欧州系と先住民の混血)・その他24%
 欧州系30%

- 1996年まで36年間内戦。その後、多民族国家を宣言
- マヤ遺跡が多数。コーヒーが有名

キューバ

首都：ハバナ
 人口：約1,126万人 一人当たりGDP：6,833米ドル
 民族：

 ヨーロッパ系25% 混血50% アフリカ系25%(推定)

- 1959年のキューバ革命以来の社会主義共和制
- 教育重視の政策で識字率世界一・医療大国

ハイチ

首都：ポルトープランス
 人口：約1,051万人 一人当たりGDP：818米ドル
 民族：

 アフリカ系90% 混血10%

- 1804年に独立した、世界初の「黒人による共和国」
- 2010年の大地震からの復興に引き続き取り組む

ドミニカ共和国

首都：サントドミンゴ
 人口：約1,040万人 一人当たりGDP：5,943米ドル
 民族：

 ヨーロッパ系16% 混血73% アフリカ系11%

- 南北アメリカで最古の欧風都市を持つ観光立国
- アメリカなど、海外に120万人が出稼ぎ

エルサルバドル

首都：サンサルバドル
 人口：約634万人 一人当たりGDP：3,835米ドル
 民族：

 スペイン系白人と先住民の混血84% 先住民5.6% ヨーロッパ系10%

- 1992年まで13年間内戦。米国への移住者が多い
- 戦後、日本企業の海外進出のスタート地点

ホンジュラス

首都：テグシガルバ
 人口：約810万人 一人当たりGDP：2,290米ドル
 民族：

 ヨーロッパ系・先住民混血91% (先住民6%、アフリカ系2%、ヨーロッパ系1%) その他9%

- 1963～80年まで軍政。2009年にはクーデターも
- 世界で2番目に大きなサンゴ礁を持つ

ニカラグア

首都：マナグア
 人口：約608万人 一人当たりGDP：1,856米ドル
 民族：

 混血70% ヨーロッパ系17% アフリカ系9% 先住民4%

- 1979年にクーデター。翌80年から88年まで内戦
- 2大洋を結ぶ新たな運河を建設中。治安は良い

コスタリカ

首都：サンホセ
 人口：約487万人 一人当たりGDP：10,211米ドル
 民族：

 スペイン系及び先住民との混血95% アフリカ系3% 先住民他2%

- 内戦の反省から1948年に常設の軍隊を廃止
- 世界の動植物種の1割が集まるエコツーリズム先進国



ジャマイカ

首都：キングストン
 人口：約272万人 一人当たりGDP：5,126米ドル
 民族：

 アフリカ系91% 混血6.2% その他2.6%

- 社会民主主義の2大政党制でイギリス風の議会政治
- 英連邦の一員で英国国王が総督を任命。

パナマ

首都：パナマシティ
 人口：約386万人 一人当たりGDP：11,036米ドル
 民族：

 混血70% 先住民7% その他23%

- 1983～89年まで軍事独裁。99年に米国が運河を返還
- 通貨バルボアは実は米ドル

特集 中米・カリブ 息づく文化 ひろがる絆

る国となった。
 中米・カリブ地域の国々の中には、低所得国から成長しきれないでいる北部の3カ国(ホンジュラス、エルサルバドル、グアテマラ)がある一方で、内戦により形で決着をつけて低所得国から低所得国へと成長しつつあるニカラグア、1948年以降、長期的に歩を進めているコスタリカなどもあり、国ごとの違いが大きい。それでも経済統合は徐々に進んでおり、金融面や消費市場の統合がさらに強まれば、

今後に向けた魅力的な市場となるだろう。
防災やエネルギー 日本の技術が生きる
 中米・カリブ地域と日本が共有する課題のうち、特筆すべきものには防災とエネルギーが挙げられる。
 中米を代表する災害はハリケーンだ。2万人近くの死者を出した1998年の「ハリケーン・ミッチ」を機に、中米6カ国は「グアテマラ宣言」で災害に強い社会づくりへの決意を改めて表明し、中米防災5カ年計画(2000-04)、中米防災10カ年計画(2000-15)がそれぞれ策定された。台風はもちろんだ、地震、火山災害、土砂災害など、中米が直面する自然災害と

同様のリスクに立ち向かってきた日本は、これまでの経験を生かして地域コミュニティの防災体制構築に協力している。また、ハリケーンでほかの国が建築した橋が壊れても、日本が建築した橋は壊れなかったという実績から、社会インフラ整備に向けた日本の支援への期待は大きい。日本が現地でも橋を建築する際は、日本のノウハウを生かして現地の人々と一緒に建築するため、日本の技術が現地に浸透し、活用されていくという利点もある。
 エネルギー問題では、日本も中米も石油を産出せず、輸入に頼っているという共通点がある。現在、日本が取り組む地熱や風力、太陽光エネルギーなどの再生可能エネルギー技術は、中米でもエネルギーコスト削減のために活用できるはずだ。

遺跡と豊かな自然 世界に誇れる遺産
 中米は、先住民文化の壮大な遺跡に代表される数多くの文化遺産に加えて、世界でも有数の生物多様性という自然遺産にも恵まれている。コスタリカのエコ・ツーリズムに見られるように、こうした観光資源を活用することが、今後の中米・カリブ地域の発展の一助となるだろう。
 近いうちに、中南米とアジアで世界のGDPの6割以上を占める時代が来る。これら二つの地域をつなぐ架け橋として、中米と日本が果たせる役割は大きい。